

発表1. 13:30~14:30 (質疑応答ののち休憩)

瀧上舞 (山形大学、日本学術振興会特別研究員PD)

インカ帝国の統治による影響と食性の地域差 —炭素・窒素同位体比を用いた研究—

南米の広域を統治範囲に収めたインカ帝国ではトウモロコシが重要視され、その栽培と流通が促進された。また各地で耕作されたトウモロコシは活発な資源流通によって帝国各地に拡散されたと考えられている。一方で、トウモロコシ摂取はごく僅かで、祭祀の際に用いる程度だったという見解もある。本研究ではインカ国内の広範囲にわたる遺跡から出土した古人骨の同位体比分析を行うことで、食性の地域差やインカによる影響についての検証を行った。

【コメンテーター】

大平秀一 (東海大学文学部)

米田穰 (東京大学総合研究博物館)



マチュピチュ遺跡のアンデネス (段々畑) ©瀧上舞

古代アメリカ学会 第3回東日本部会研究懇談会

同位体分析による 南アメリカ考古科学の展開

発表2. 15:15~16:15 (質疑応答ののち17:30ころ終了予定)

大森貴之

(東京大学総合研究博物館 放射性炭素年代測定室 特任研究員)

南米における高確度年代推定の危うさ： 放射性炭素年代の暦年較正における問題

赤道付近の大気中¹⁴C (放射性炭素) 変動パターンについては現在も実態がつかめておらず、南半球の¹⁴CデータセットShCalをもとにした年代推定の正確さについては検証が十分に進められていない。本発表では、ペルー出土樹木の年輪中¹⁴C測定から得られた大気中¹⁴C変動について紹介し、ShCalによる暦年較正の問題点を議論する。

【コメンテーター】

渡部森哉 (南山大学人文学部)

米田穰 (東京大学総合研究博物館)

2014年6月1日
(日) 13:30より

東京大学
総合研究博物館7階
ミューズホール
※休館日のため通用口より
ご入館ください。

非会員の方も参加できます。
参加の事前登録は必要ありません。
会場定員は約60名です。

お問い合わせ：
古代アメリカ学会事務局
jssaa@sa.rwx.jp